

思いもかけぬ 安全もちによるこぶ帰省客

小雪が降り、寒さも一段と増した、十二月二十九日、連合青年団は、青少年ふるさとづくりの一環として、交通安全祈願もちを、マイカー帰省者に配布した。

午前九時から、中央公民館前に集まり、交通安全を呼びかける旗などの設置作業をしたあと、午前十時より、野崎団長ら二十人と六車町長、教育委員会職員も加わり、威勢よく、石ウスにキネを打ちこみ四十キロのモチ米で約千二百個のもちをつきあげた。

手際よく、白もちとアンコ



ネジリハチマキをした昔の青年も加わって、呼吸もビッタンコ!

を配った。

団員……「はい、ここに止まってください。京都からですか?」

帰省者……「はい、そうですが、何か?」

団員……「遠いところから御苦労さまです。これは「もち」です。食べながら、気を休めて、安全運転で帰ってください。」

帰省者……「ワー、ありがとうございます。あの一昼ごはん、食べていいので、あと一袋ちょうだい。」

団員……「はい、ハイ、どうぞ、どうぞ、気をつけて、お帰り下さい。」

帰省者……「ありがとうございます。サヨウナラー。」

団員……「良い正月を迎えてください。」

東京や大阪ナンバーの車も多く、ドライバーは、「こと



大型トラックから軽自動車まで、次々に青年の手によってモチは配布された。

一層会員を増やして、健全な青少年をより多く育てて貰いたいと思った。

今年のはみの年

今年のはみの年です。巳をどうして蛇というのでしょうか。巳は蛇です。とくろを巻いて冬ごもりしていた蛇が、そろそろ鎌首をもたげて、出ようとするのをかたどったのが巳です。蛇が出るのは大体四月頃でしょう。だから巳は月にすれば四月であり、一日では十時頃を意味します。

石油ショック以来、我が国は不景気が続き、かてて加えて昨年はロッキード事件等、全く冬のような陰気な年でした。今年はずっと変わって、ロッキード事件もようやく落ちつき、景気も回復の兆がみえて来て、何となく活気づいて来ました。まさに巳の年のような気がします。

今年には巳年です。巳はハジマルとも読みます。我が国一



やさしく安全運転を呼びかけもちを配布される町長さん。

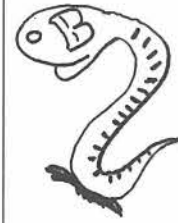
肥後狂句 堀双岳選

餅、気分の出らん機械搗き
その後が、女が矢鱈思きする
その後が、バーで借金殖やさした
餅、あ、勇ましき杵の音
その後が、二号のつかみ合ハ
その後が、君に見せ度アもの出た
その後が、どきやんなるかがお楽しみ
餅、胃の中ア金歯持ち込うだ
餅、ああたにやア焼酎がよかごたる
餅、年ア取ろごつなかつて
その後が、秘書の云うごつなる社長
餅、棟から投ぐると白と赤
その後が、言いたかばってん言われんと
その後が、ほつ散らきアてさでうせた
その後が、病院通いの始つた
餅、ほしゆしてたららん喉ギユツギユ
餅、臼杵いらん沙婆だもん

拙者 双岳 三澄 緑助 ゆきを

次題

やめたア。次から次。
四句以内、一月十五日まで
津奈木町公民館へ。
新入歓迎



億の国民が、お互いに手をつなぎ、一年では四月、一日では十時頃のような、未来に限りない希望のもてる陽気の巳年にしたいものです。

津奈木

前々より

元旦や我は日本に生れたり

角田竹冷

年頭雑感

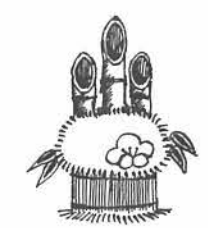
町長六車孝吉



最近我が町にも菊花展や蘭同好会などが催され、萬年青さつき、肥後椿など一寸したブームを呈するに至っている。

世は將に太平である。口に物価高を唱え、雇傭難税高を託(かこ)ちながら、ゴルフ釣魚等も盛んである。若い人達は収入の大半を注ぎ込んで立派な車を次々に買い替える。車のために働いているのではないかと、他人事ながら気懸りである。

生来何でも興味を持つ癖があつて、今でも生嚙りの失敗談が多い。仕事の関係で実地に盆栽などやれないので、専



年頭愚感

町教育委員長 田上一智



町内の三小中学校はそれぞれ創立百周年を迎え、盛大に記念事業を営まれました。先人の尊い積み重ねを基盤として、本年から新しく一〇一年を踏み出すことになりました。

中学校も県下有数校の中

菊の本萬年青の本、或いは松柏類盆栽の本を見ても、ユリ程ではないが似た様なことが書いてある。趣味の世界にも矢張り我田引水がある。

謹賀新年

町議会議長 川崎一幸



謹みて新年の御あいさつを申し上げます。

町民の皆さん御一家お揃いで輝かしい昭和五十二年の新春を迎えられ衷心より御祝を申し上げます。昨年も事多き年でありましたが、議会も十二月の定例会を最後に無事終了し、本年の任務を終らせていただきました。町民各位各層の

御理解と御援助に心あたたまる思いで新年を迎えることが出来ました。心から厚く御礼申し上げます。

どうやら昨年に続いて今年も「ゆれ動く年だ」と言われておりますが、安定した国民生活への希求はいつどんな時代でも変わりありません。私達為政者は日頃の政治行政の中に、その責任の重さを小さい町は町なりに痛感するものであり

ます。今年には更に、皆さんの御考えを町政に反映させる首長を選ばねばならない意義ある年でもあります。私達議員十六名共々意を新にして、激動の一九七七年にいとみたいと存じます。迎春にあたり皆様の健康と御多幸を願い乍ら、新年の祝詞と致します。

一九七七年元旦

☆☆☆☆

謹賀新年

津奈木太郎峠より写す



成人おめでとう



昭和52年成人者の勢ぞろい

昭和五十二年の成人式は一月四日、新成人百九十六名中八十八名参加、婦人会、青年団の協力のもとに、午前九時から実施された。

昨年までは一泊二日の日程で実施されていたが、時代の変遷とともに、いろいろな問題点や支障ができたので、本年は一日成人式に変更された。

出席者全員、四台のバスに分乗、九時から正午まで、大字津奈木から千代を経て辻に登り、福浦を経由し、平国、赤崎、干拓と、津奈木町を一周、本町の発展状況を視察した。

第一部 故郷巡り

正午から一時まで、公民館ホールで、中学生時代の旧師等多くの来賓の出席を得て、厳粛な式典を挙行。一時から二時まで、婦人会の心尽しの手料理に舌鼓をうちながら、

自己紹介、旧師との懇談等、なごやかな会食に、時のたつのがおもしろい。

第三部 講話

午後二時から三時まで、岡松先生の「郷土を愛する心」と題しての講話を聴く。

第四部 成人の集い

午後三時、津奈木小学校体育館に移動。記念写真撮影後青年団の指導の下に、成人の集い——キヤンドルサービスに、楽しくも成人者への思い出にふさわしい一時をすごし、六時半無事終了した。



〔写真上〕梅花小禽図より

元日や晴れてすずめのものがたり (嵐雪)

はならぬ存在である。

次兄上村さんのことは、四号で紹介したので略すが、

吉岡さんは水俣市宝川内末弟の弥三さんとは福岡で共に健在。安人さん、まささん、ミネさんは共に赤崎で健在である。

私説 老人優等生 (九)

若い時から力持ちで、草相撲で鳴らした時代もあり、特技として、八十才を越えてサカダチの名人であった由、かつて第一回老人スポーツ大会を昭和四十七年湯浦で開いた時、トラクションとして、各町から老人の特技を披露することになり本町より安野さんのサカダチが出され期待されたのだが、出場二三日前風邪にかかりその妙技に目にかかれなかったのが、今もって心に残っている。去年の赤崎老友会の新年会の紅白歌合戦では白軍の一番バッターとして、得意の相撲甚句で会を盛りあげる等老友会でもなくて

はならぬ存在である。

次兄上村さんのことは、四号で紹介したので略すが、

吉岡さんは水俣市宝川内末弟の弥三さんとは福岡で共に健在。安人さん、まささん、ミネさんは共に赤崎で健在である。

七人の兄弟で共通すること、性格が温順で人に親しまれる。

辻団地で、町長・助役の説明をうける成人者。



長寿兄弟
合計年齢
四四七才

世にも珍しい長寿兄弟は、赤崎日添の網元林田安野さんの七人兄弟で、その合計年齢なんと四四七才である。

林田 安野 (八十七才)
上村喜久太 (八十四才)

よりよい部落 つくりをめぐして

Ⅱ 町中部落Ⅱ

先月号では、よりよい部落づくりをめざして、(一)町民体育祭に参加することでの部落づくり、(二)部落独自の行事を充実させることでの部落づくりを紹介しました。

今回は、その続きを紹介しましょう。

(三)公民館卓球とおして心の輪を広めよう。

これは誰でも気軽に公民館に顔を出し、練習がされるようにする。上手、下手は別と

して、皆が楽しく会うことを目的としている。日水金曜日が練習日で土曜は主に会合にあてられる。

練習で汗を流したあと笑ったり、話したりしながら各行事の反省や計画がなされる。旅行などから帰って来られた人の、みやげを囲んで賑やかなひとときに、心の輪が広まり、深まっていくそう。

(四)以上の行事を部落新聞、「めがね」でさらに部落づくりへと確かめ、発展させる。

「めがね」と名付けた理由、どうだおさん尉とばかり、得意意にあたりを見廻している。その時、太右エ門の膝のあたりに、親指ぐらいの野ねずみ、はい上つて来て、咬みついて。太右エ門は、余りの痛



7日の鬼火焼

と、皆が楽しく会うことを目的としている。日水金曜日が練習日で土曜は主に会合にあてられる。

単に記録的なことや、連絡事項を記事にするのではなく、部落づくりの目標にそって、各行事で感じたこと、書いておいた方がよいと思ったことなどが建設的に、あるいは楽しくて、そのまゝゴロリと、黒ずんだ池の中に沈んでしまつた。太右エ門は、池の面の静かな波紋を、目で追って向う岸を見ると、ドブ酒とドブ水を、腹一杯呑まれたおさん尉が、すぶ濡れとなり、頭に水藻を頭や手足にひっかけて、フラフラしながらはい上つて行くのを見えた。

山中観音堂の宝塔

川内に「おばかさん」といって古くから大切にしているお墓がある。「お馬鹿さん」でないことは、毎年おまつりをしていくこともわかる。

宮崎真澄さんとこの裏山にある。

今年十月、古石塔の大家黒田清光という先生が津奈木にいられた時、このお墓に案内された。先生はお墓場内にバラバラになっていた石を積み重ねて五輪塔を完成された。

そしてそれが鎌倉(初期)時代のものといわれた。八百年ばかり前のもの(写真参照)

土の中にあつた五輪塔

下川内から硯岩に行く道の橋の近くの田の中に、数基バラバラになった五輪塔が見つかった。川内のおばかさんよりは新しく、五百年ばかり前のもの(鎌倉末期)

川内にこの二つの五輪塔があることは郷土史の上からも

津奈木の古石塔 貴重な文化財

代のものといわれた。八百年ばかり前のもの(写真参照)

重要なことである。

小津奈木の五輪塔

小津奈木、地ノ神さんの境内にある五輪塔の一つは、大永五年とはっきりしている。五二一年前になる外に数基

その外に

○倉谷 山本重人さん前の密柑畑の限に五輪塔

○日野 大森宇蔵さんの墓地に四基の五輪塔

○日野 観音堂の横に珍らしい宝塔がある(写真参照)

○薬師越 川村一男さん宅の後の山、新道わきに五輪塔

お願い

写真にあるような石塔が見つかったら、公民館までお知らせ下さい。

辻の大山尉狐

怒ったおさん尉の勢いに、さすがの太右エ門も、一瞬たじろいだ。

おさん尉は、地を蹴ってはねると、一本の棒のようになつて、空中に飛び上つて、一週転じたかと思うと、スーッと

その姿が消えてしまった。

太右エ門は、ハッとして、無意識に、ひざ元の徳利の口を手のひらで押さえた。これで

津奈木民話 (三) 佐々木緑

さ、びっくりして、この野ねら奴がと、徳利から手をはなして、野ねずみを、払いのけようとした。

野ねずみは、軽く体をかわして、ヒョイと、徳利の口にと

び乗ったかと思うと、つるり

みかけの酒が、急にほしくなつたが、もうおさん奴が、呑んでしまったらう。

太右エ門は、腹立ちまじれに、いきなり徳利を、ヒョイと、池に放り投げた。徳利は

狐をえがいて、ドボンと音を

けて、この仕返しを誓った。

小津奈木五輪塔

小津奈木五輪塔